

2. 死亡・けが等の概況

(1) 死亡の概況

人口動態統計により、甲賀市における過去5年間の死亡原因をみると、不慮の事故による死亡が6位に、自殺による死亡が8位になっています。

死亡原因 上位10位（2007年～2011年） 出典：人口動態統計

	傷病名	死亡者数	年平均	死亡率	構成比
総数		4,213	842.6	884.5	
1位	悪性新生物	1,171	234.2	245.8	27.8%
2位	心疾患(高血圧性を除く)	728	145.6	152.8	17.3%
3位	肺炎	470	94.0	98.7	11.2%
4位	脳血管疾患	416	83.2	87.3	9.9%
5位	老衰	167	33.4	35.1	4.0%
6位	不慮の事故	149	29.8	31.3	3.5%
	不慮の窒息	46	9.2	9.7	1.1%
	交通事故	35	7.0	7.3	0.8%
	転倒・転落	23	4.6	4.8	0.5%
	不慮の溺死及び溺水	20	4.0	4.2	0.5%
	その他	25	5.0	5.2	0.6%
7位	その他の呼吸器系の疾患	148	29.6	31.1	3.5%
8位	自殺	129	25.8	27.1	3.1%
9位	腎不全	87	17.4	18.3	2.1%
10位	慢性閉塞性肺疾患	79	15.8	16.6	1.9%

注) 死亡者数は5年間の合計人数、死亡率は10万人あたりの死亡者数、比率は死亡総数に占める割合です。

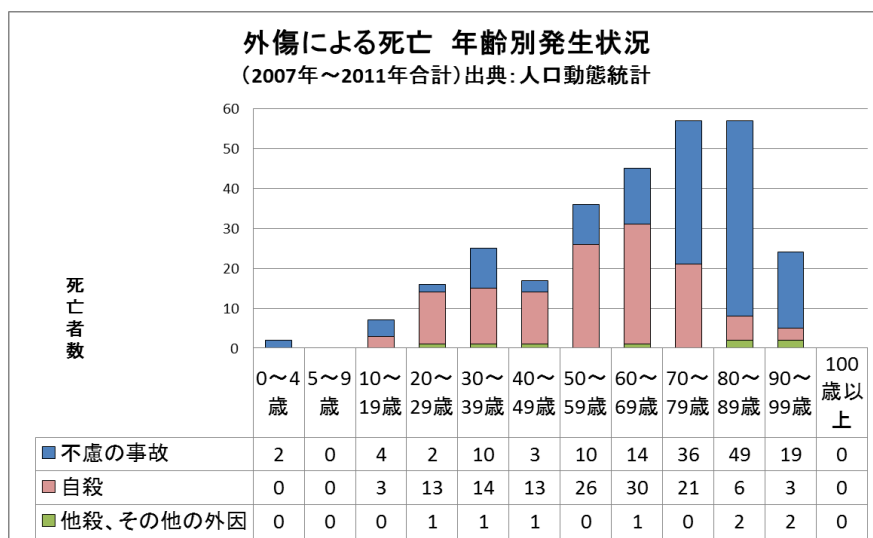
人口動態統計により、甲賀市における過去5年間の死亡原因を各年齢層別にみると、不慮の事故による死亡が、0歳～4歳、10歳～59歳の死亡原因の上位を占め、自殺による死亡は、10歳～69歳の死亡原因の上位を占めています。とくに、10歳～39歳では、死亡原因の1位が、いずれも「外傷による死亡」となっています。

年齢階層別死亡原因 上位5位（2007年～2011年） 出典：人口動態統計

年齢層	死亡総数	1位	2位	3位	4位	5位
全体	4,213人	悪性新生物 1,171人 27.8%	心疾患(高血圧性を除く) 728人 17.3%	肺炎 470人 11.2%	脳血管疾患 416人 9.9%	老衰 167人 4.0%
0～4歳	19人	周産期に発生した病態 8人 42.1%	先天奇形、変形及び染色体異常 3人 15.8%	心疾患(高血圧性を除く)、不慮の事故 各2人 各10.5%		腸管感染症、悪性新生物、乳幼児突然死症候群、他 各1人 各5.3%
5～9歳	0人	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —
10～19歳	9人	不慮の事故 4人 44.4%	自殺 3人 33.3%	その他の精神及び行動の障害、脳血管疾患 各1人 各11.1%		— — —
20～29歳	27人	自殺 13人 48.1%	悪性新生物、心疾患(高血圧性を除く) 各3人 各11.1%		不慮の事故 2人 7.4%	脳血管疾患、肺炎、喘息、他 各1人 各3.7%
30～39歳	48人	悪性新生物、自殺 各14人 各29.2%		不慮の事故 10人 20.8%	心疾患(高血圧性を除く) 4人 8.3%	肝疾患 2人 4.2%
40～49歳	61人	悪性新生物 21人 34.4%	自殺 13人 21.3%	心疾患(高血圧性を除く) 6人 9.8%	肝疾患 4人 6.6%	脳血管疾患、不慮の事故 各3人 各4.9%
50～59歳	198人	悪性新生物 80人 40.4%	心疾患(高血圧性を除く) 28人 14.1%	自殺 26人 13.1%	脳血管疾患 20人 10.1%	不慮の事故 10人 5.1%
60～69歳	422人	悪性新生物 191人 45.3%	心疾患(高血圧性を除く) 60人 14.2%	脳血管疾患、自殺 各30人 各7.1%		肺炎 15人 3.6%
70～79歳	935人	悪性新生物 375人 40.1%	心疾患(高血圧性を除く) 112人 12.0%	脳血管疾患 89人 9.5%	肺炎 70人 7.5%	その他の呼吸器系の疾患 41人 4.4%
80～89歳	1,581人	悪性新生物 381人 24.1%	心疾患(高血圧性を除く) 316人 20.0%	肺炎 211人 13.3%	脳血管疾患 177人 11.2%	老衰 57人 3.6%
90～99歳	863人	心疾患(高血圧性を除く) 188人 21.8%	肺炎 159人 18.4%	悪性新生物 103人 11.9%	脳血管疾患 91人 10.5%	老衰 90人 10.4%
100歳～	50人	老衰 16人 32.0%	肺炎 11人 22.0%	心疾患(高血圧性を除く) 9人 18.0%	脳血管疾患 4人 8.0%	その他の呼吸器系の疾患 3人 6.0%

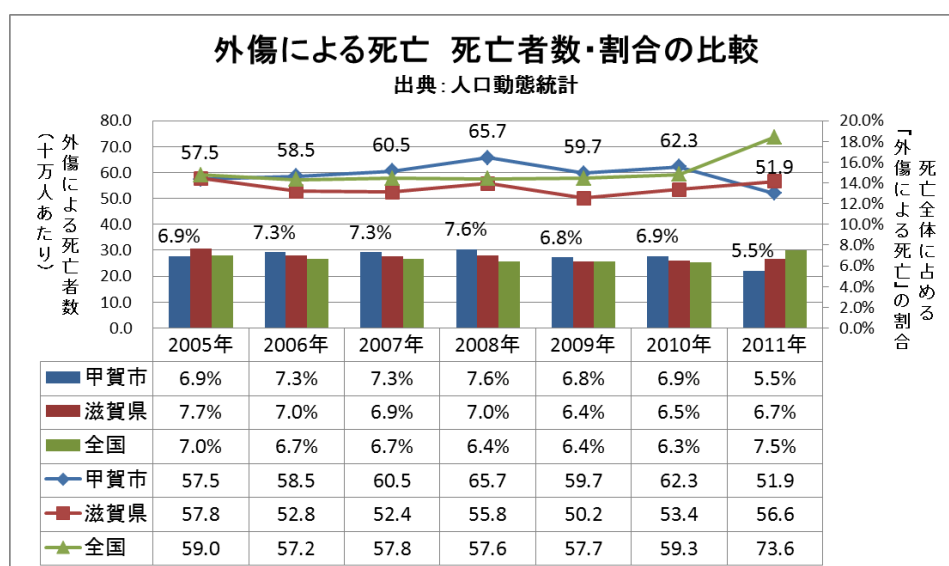
注) 死亡者数は5年間の合計人数、割合は各年齢層の死亡総数に占める割合です。

前頁の年齢階層別死亡原因の表においては、高齢になると病気による死亡が増えるため、不慮の事故による死亡の順位が下がっていますが、発生件数をみると、むしろ高齢になるにつれ増加しており、80歳～89歳で最も多く発生しています。



人口動態統計における「外傷による死亡」の発生状況を全国・滋賀県と比較すると、若干の差ではありますが、2006年から2010年にかけて、甲賀市の人口10万人あたりの死亡者数が、全国・滋賀県の数値より上回る傾向にあります。また、「外傷による死亡」が、死亡全体に占める割合を比較しても、甲賀市の割合は、全国・滋賀県の数値より上回る傾向にあります。なお、2011年に全国の死亡者数が増加しているのは、東日本大震災による死亡者数の増加が影響しています。

甲賀市における外傷による死亡の中で、最も発生件数が多いのは、自殺です。また、自殺は、年齢層別にみて10歳～79歳における1位を占めています。自殺に次いで発生件数の多い不慮の窒息による死亡は、70歳～99歳に多く発生しています。



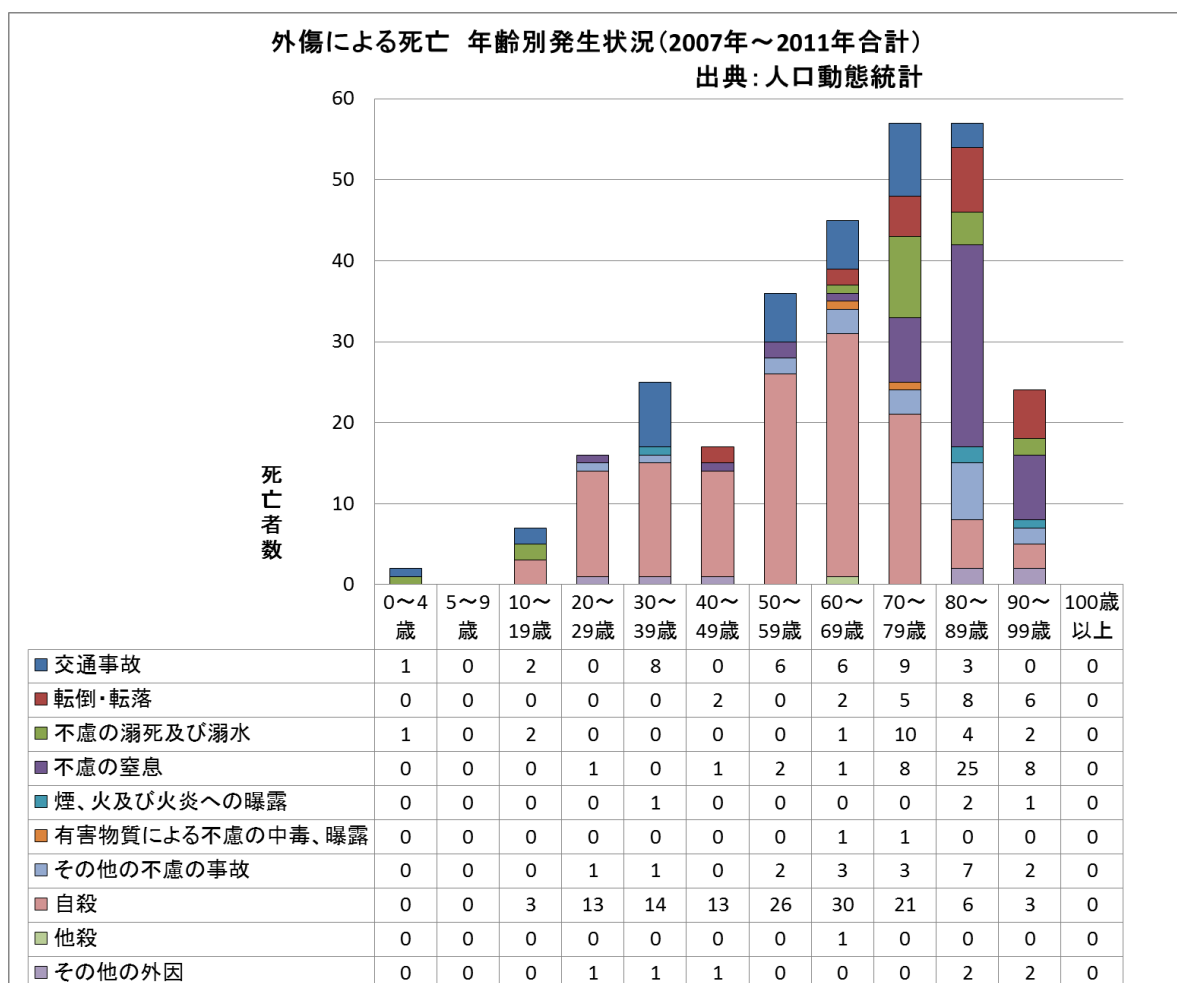
外傷による死亡の発生件数 上位5位 (2007年～2011年) 出典：人口動態統計

年齢層	外傷による死亡の総数	1位	2位	3位	4位	5位
全体	286人	自殺 129人 45.1%	不慮の窒息 46人 16.1%	交通事故 35人 12.2%	転倒・転落 23人 8.0%	不慮の溺死及び溺水 20人 7.0%
0～4歳	2人	交通事故、不慮の溺死及び溺水 各1人 各50.0%		— — —	— — —	— — —
5～9歳	0人	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —
10～19歳	7人	自殺 3人 42.9%	交通事故、不慮の溺死及び溺水 各2人 各28.6%		— — —	— — —
20～29歳	16人	自殺 13人 81.3%	不慮の窒息、その他の不慮の事故、その他の外因 各1人 各6.3%			— — —
30～39歳	25人	自殺 14人 56.0%	交通事故 8人 32.0%	煙・火及び火炎への曝露、その他の不慮の事故、 その他の外因 各1人 各4.0%		— — —
40～49歳	17人	自殺 13人 76.5%	転倒・転落 2人 11.8%	不慮の窒息、その他の外因 各1人 各5.9%		— — —
50～59歳	36人	自殺 26人 72.2%	交通事故 6人 16.7%	不慮の窒息、その他の外因 各2人 各5.6%		— — —
60～69歳	45人	自殺 30人 66.7%	交通事故 6人 13.3%	その他の不慮の事故 3人 6.7%	転倒・転落 2人 4.4%	不慮の溺死及び溺水、 不慮の窒息、有害物質 による不慮の中毒・曝 露、他殺 各1人 各2.2%
70～79歳	57人	自殺 21人 36.8%	不慮の溺死及び溺水 10人 17.5%	交通事故 9人 15.8%	不慮の窒息 8人 14.0%	転倒・転落 5人 8.8%
80～89歳	57人	不慮の窒息 25人 43.9%	転倒・転落 8人 14.0%	その他の不慮の事故 7人 12.3%	自殺 6人 10.5%	不慮の溺死及び溺水 4人 7.0%
90～99歳	24人	不慮の窒息 8人 33.3%	転倒・転落 6人 25.0%	自殺 3人 12.5%	不慮の溺死及び溺水、その他の不慮の事故 各2人 各8.3%	
100歳～	0人	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —

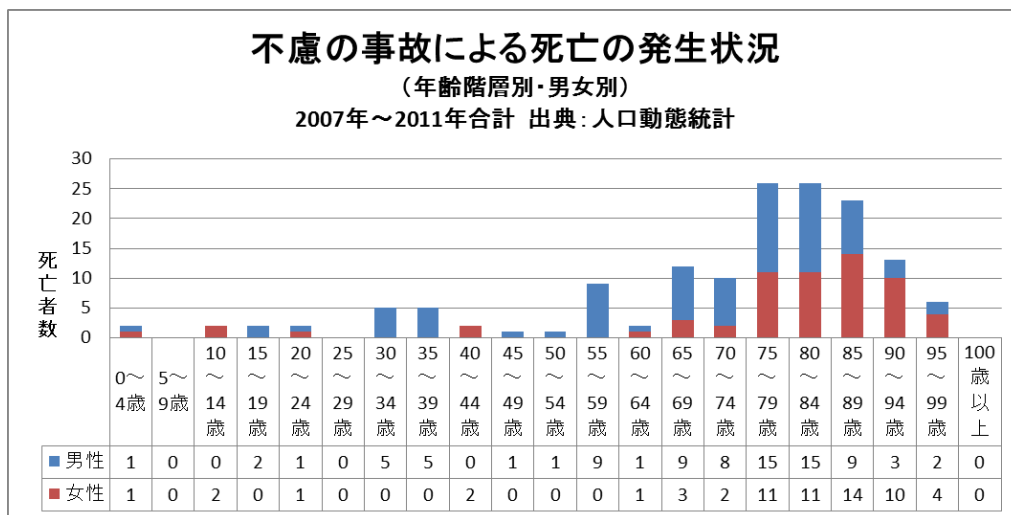
注) 死亡者数は5年間の合計人数、割合は各年齢層の「外傷による死亡」の死亡総数に占める割合です。

外傷による死亡の発生状況を年代別にみても、自殺の件数の多さが目立ちます。交通事故については、セーフコミュニティ・アンケートでは、生活の中の不安要因として最上位にあり、一般的な注目や危機感が向けられやすい要因と言えますが、死亡の内訳をみると、自殺や不慮の窒息が、交通事故以上に多く発生していることがわかります。

なお、年代別にみていくと、自殺は60歳から69歳で最も多く発生しており、70歳以降で減少する傾向にあります。交通事故は、様々な年代で発生しています。その他、不慮の窒息による死亡、転倒・転落による死亡、不慮の溺死及び溺水は高齢者に多く発生しています。



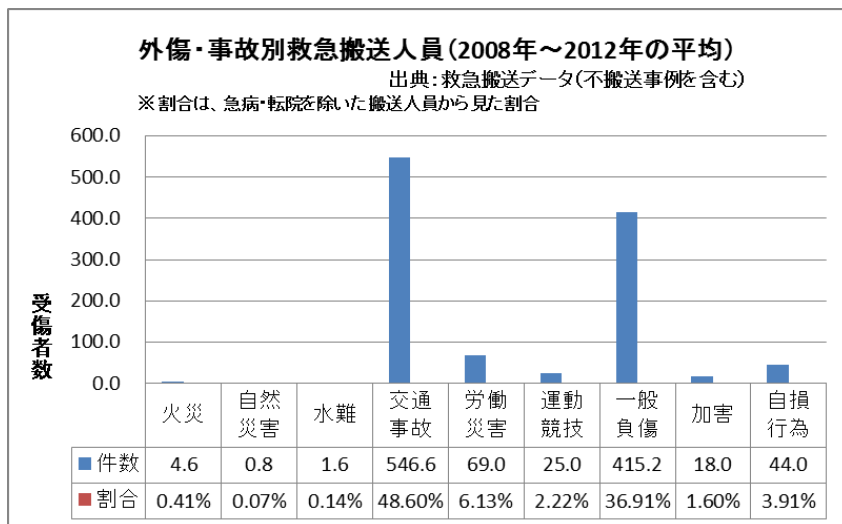
外傷による死亡を、「不慮の事故による死亡」と「自殺、加害、その他」に大別して、このうち不慮の事故による死亡について年齢階層別・男女別発生状況をみると、全体として男性の件数の方が女性より多い傾向にあります。ただし、60歳以降、高齢になるにつれ女性の件数が増加しており、80歳～89歳では男性の件数を上回っています。



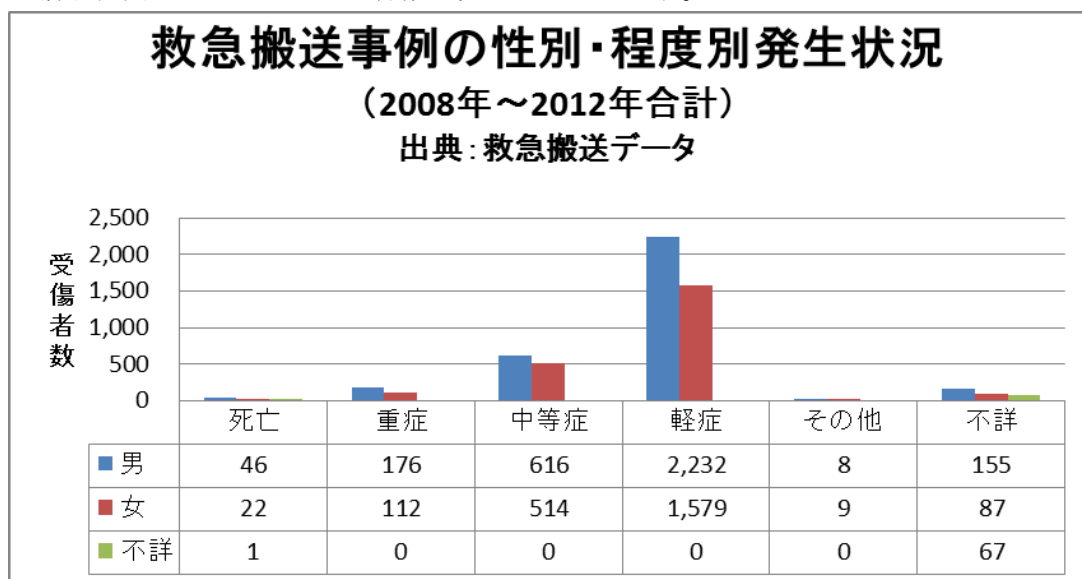
(2) けが等の概況

< 1. 救急搬送データ、消防統計からみたけが等の概況 >

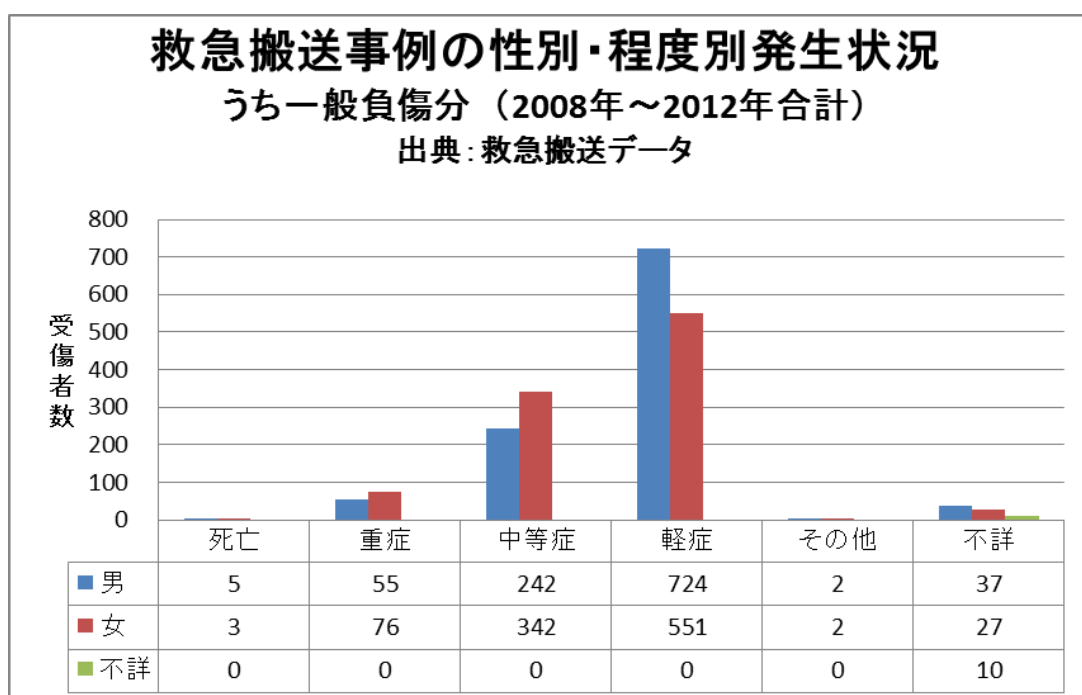
事故やけがにかかる救急搬送で最も多いのは交通事故で、平均して年に 500 件以上発生しています。次に多いのは一般負傷で、平均して年に 400 件以上発生しています。一般負傷には、不慮の窒息、転倒・転落、溺死・溺水等が含まれるため、これらの実態や原因を分析するには、救急搬送データをさらに詳細に分類・分析していく必要があります。



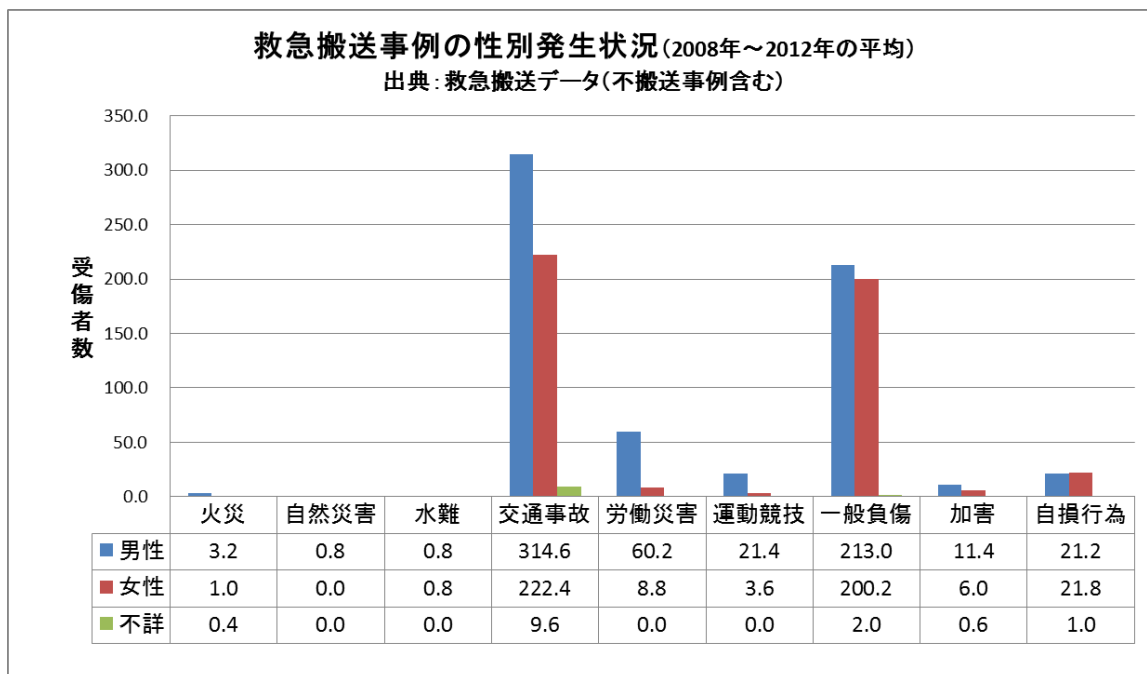
救急搬送事例の傷病程度をみると、軽症のものがほとんどで、性別で比較すると、いずれの傷病程度においても男性の件数が女性を上回ります。



しかし、一般負傷分をみると、重症・中等症においては女性の件数が男性を上回っています。

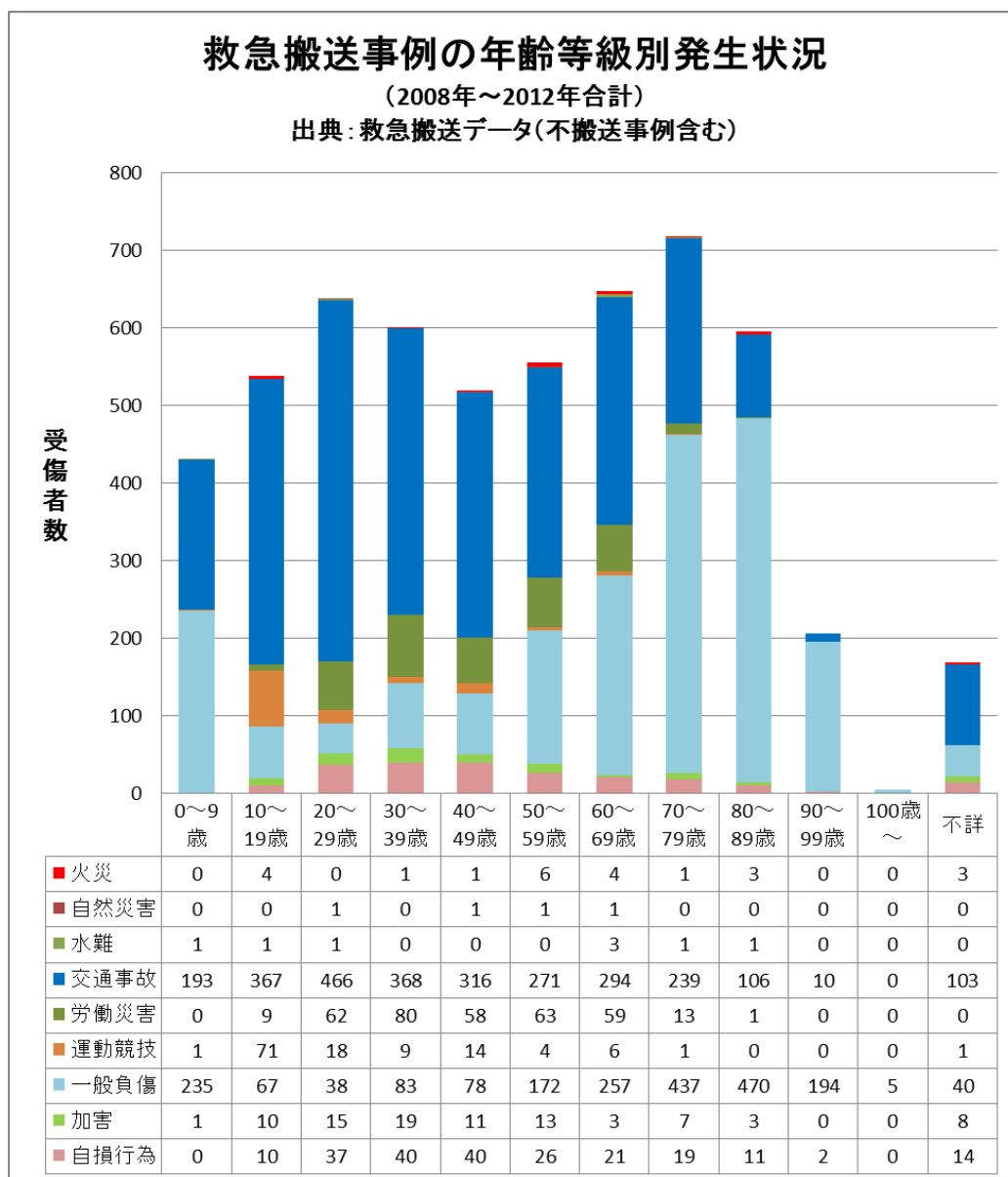


救急搬送事例を性別で見ると、多くの項目で、男性の件数が女性の件数を上回ります。特に労働災害や運動競技では、受傷者のほとんどが男性です。しかし、自損行為では、男性と女性の件数が同程度となっています。



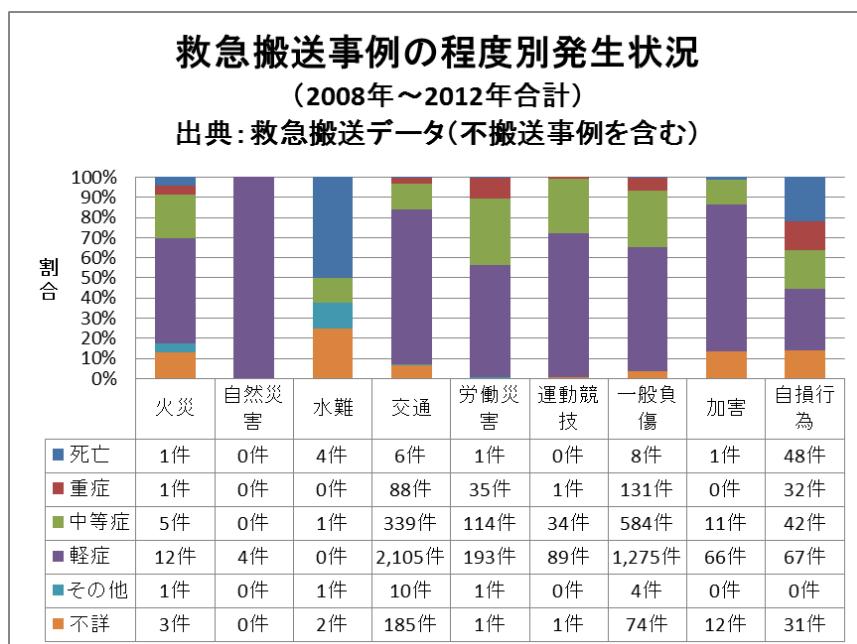
救急搬送事例の年齢等級別の発生状況をみると、全体としては、20歳から29歳までの年代と、70歳から79歳までの年代の二つの年代がピークとなっています。

交通事故は20歳から29歳までの年代に多く、一般負傷は、0歳から9歳までの年代と、高齢の年代に多く発生しています。運動競技は、10歳から19歳までの学生の年代、労働災害は20歳から69歳までの働く年代に多く発生しています。自損行為は、30歳から49歳までの年代に多く発生しています。

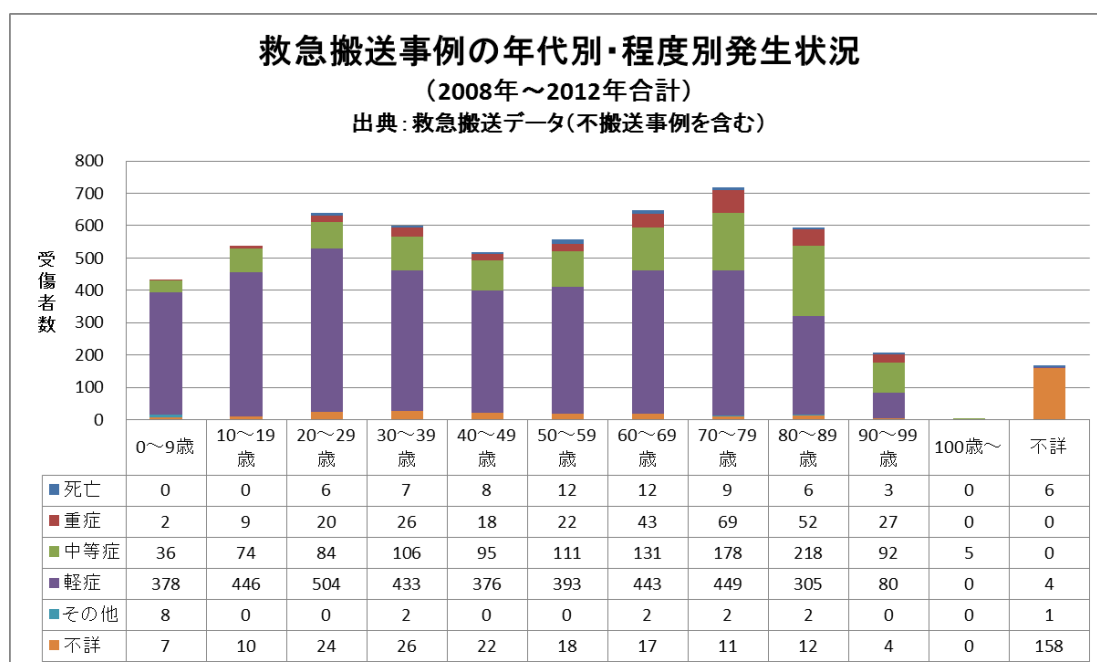


救急搬送事例の種類別の傷病程度をみると、死亡の件数が最も多いのは自損行為です。自損行為は、軽症も含めた全体の件数としては多くありませんが、死亡の占める割合が2割以上あります。

重症・中等症の占める割合が高いのは、労働災害と一般負傷です。交通事故では、軽症の発生件数が非常に高いため、重症・中等症の占める割合が低くなっています。

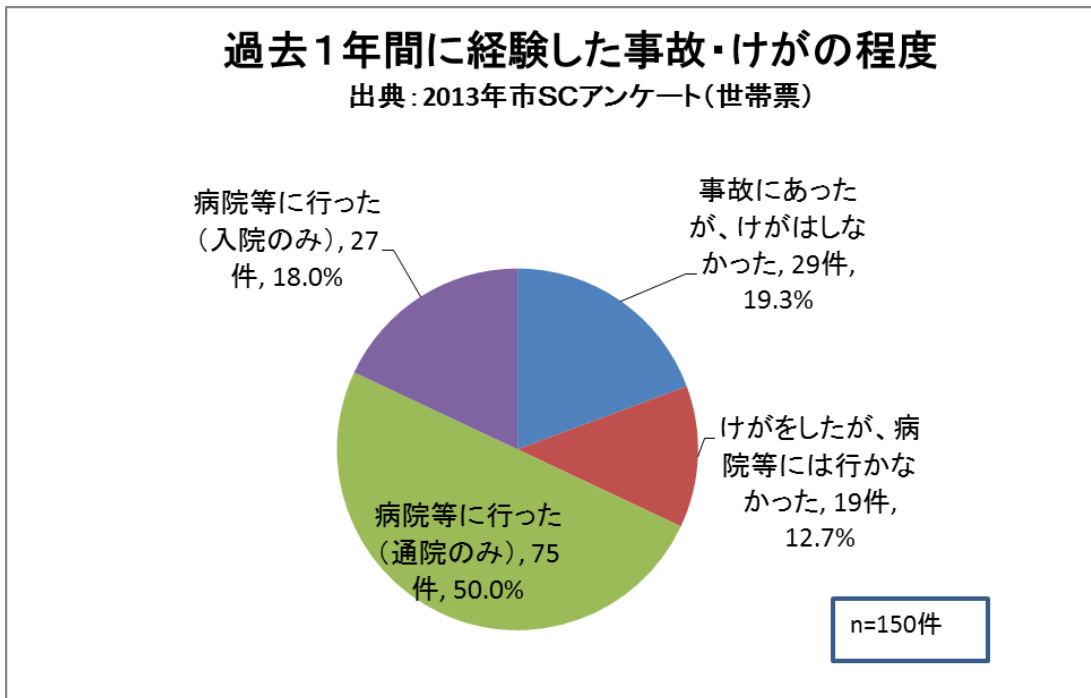


救急搬送事例の傷病程度を年代別にみると、高齢になるにつれ、重症や中等症の占める割合が高くなっています。

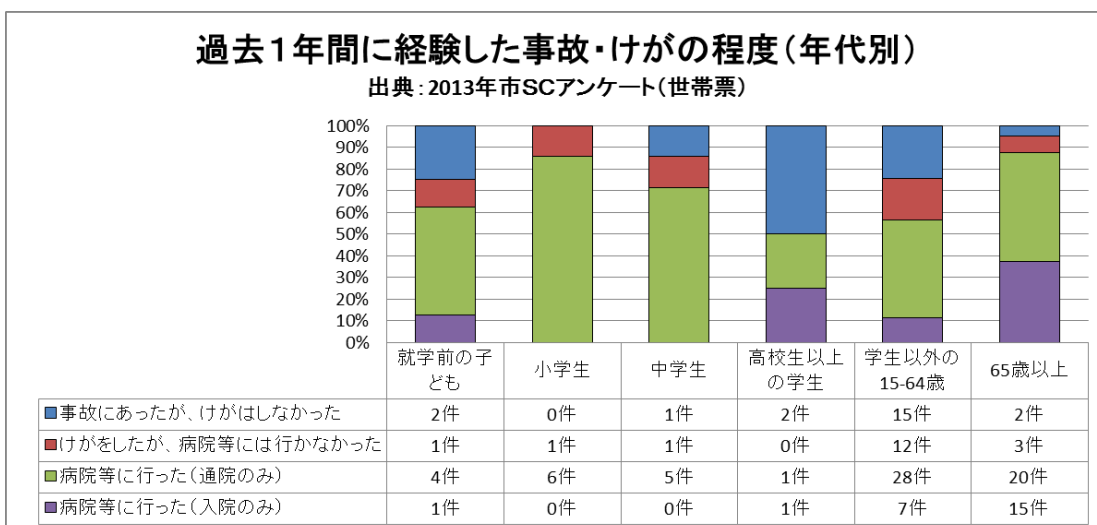


< 2. アンケートからみたけが等の概況 >

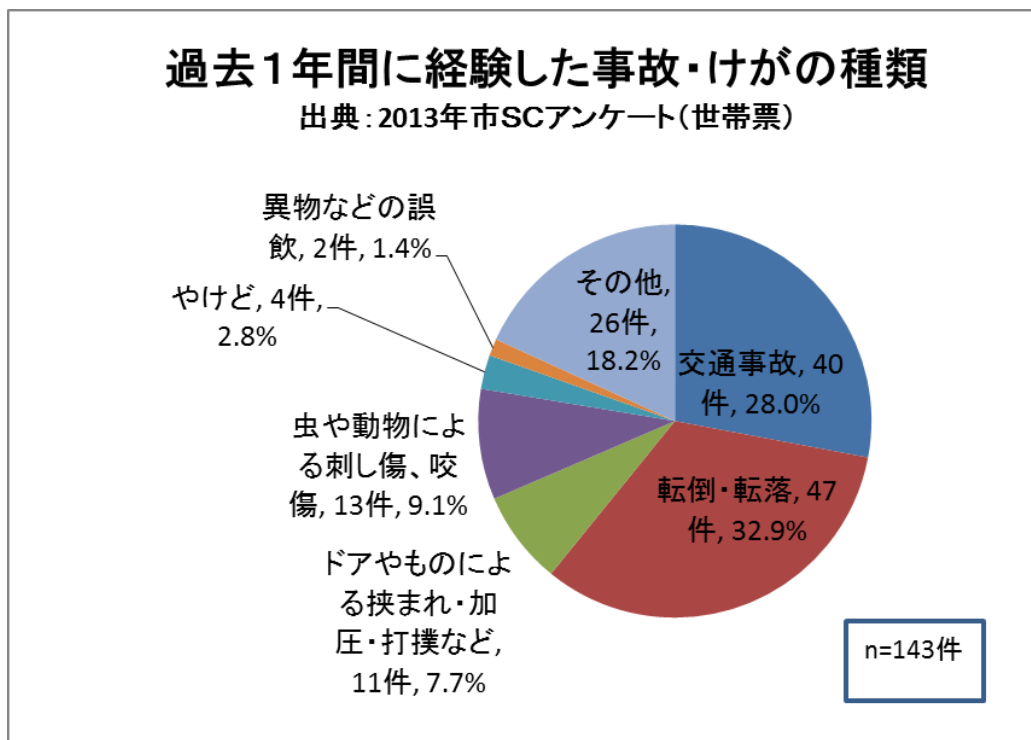
セーフコミュニティ・アンケートにおいて、過去1年間に経験した事故・けがについてたずねたところ、事故・けがの程度として最も報告が多かったのは、「病院等に行った（通院のみ）」で、半数を占めていました。



上記の結果について、事故やけがの報告が多かった「学生以外の15歳から64歳まで」と、「65歳以上」の年代を比較すると、高齢の年代では入院に至るレベルの事故・けがの割合が高いことがわかります。



セーフコミュニティ・アンケートにより報告のあった事故・けがの種類として、最も多かったのは転倒・転落で、次に多かったのは交通事故でした。



上記の結果について、事故やけがの報告が多かった「学生以外の15歳から64歳まで」と、「65歳以上」の年代を比較すると、64歳までの年代では交通事故の割合が高く、65歳以上の年代では転倒・転落が多いことがわかります。

